

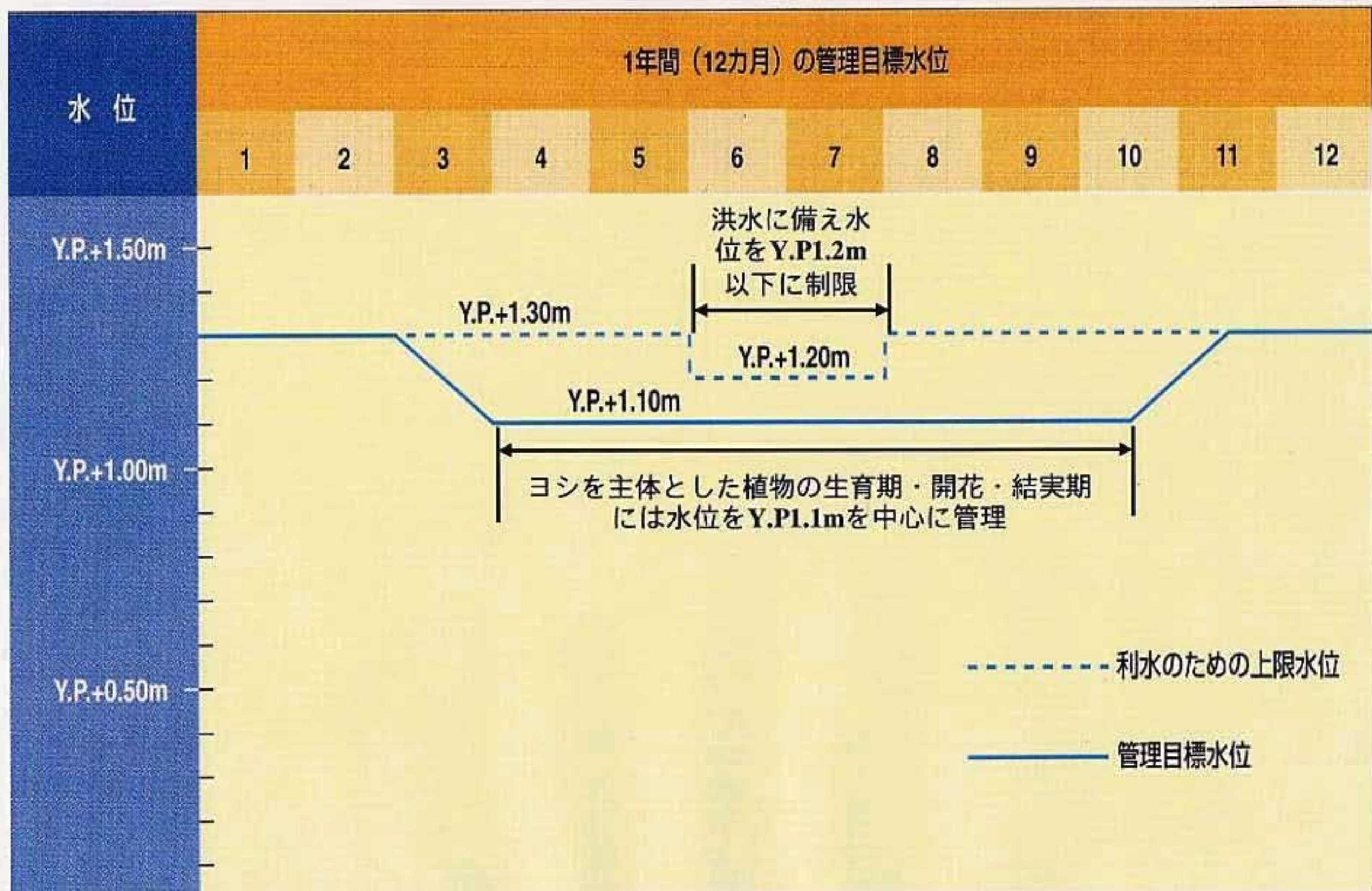
霞ヶ浦の水位に関する基礎資料

1. 地域社会と水位の関係
2. 霞ヶ浦開発事業の目的
3. 管理の基本となる指標
4. 事業の効果・影響等
5. 影響に対する対応
6. 今後の管理に向けて

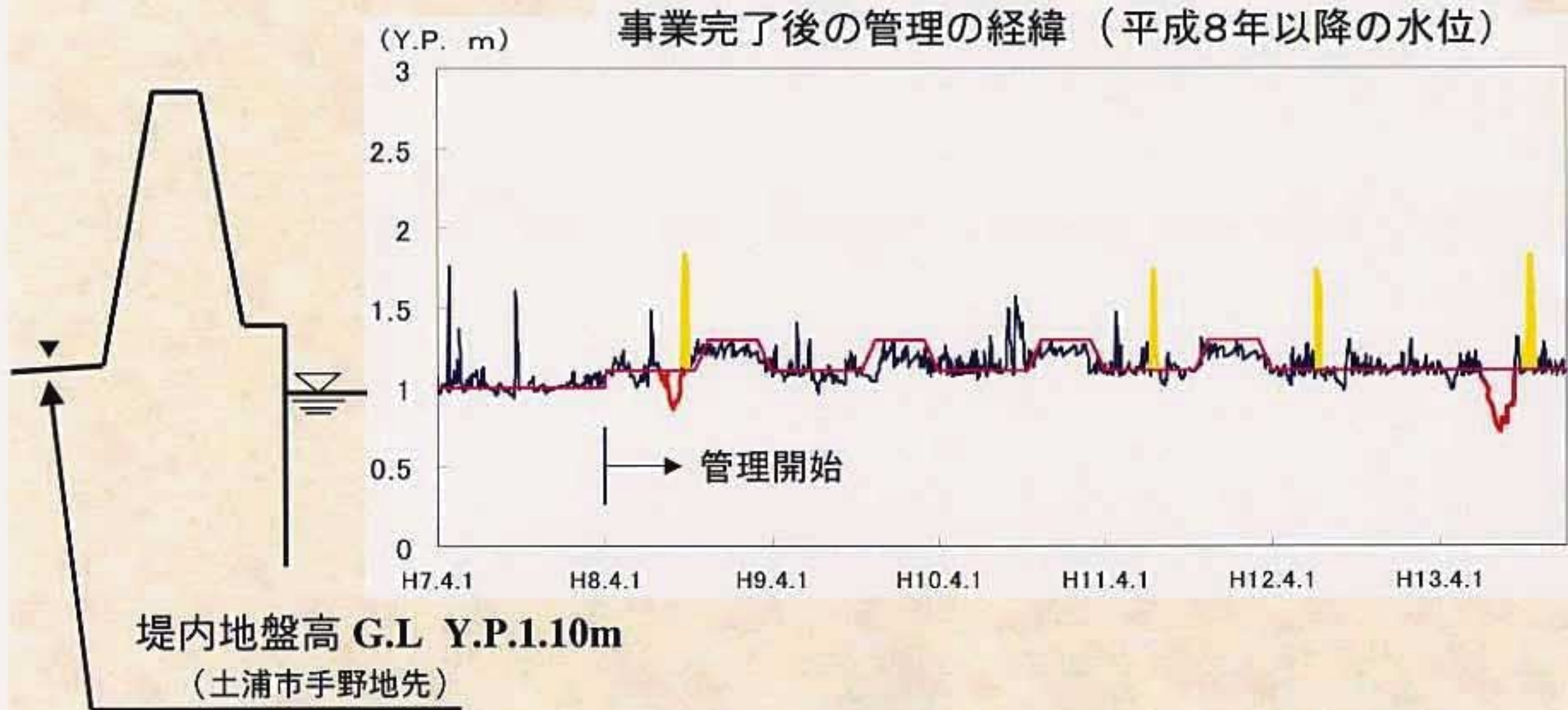
2. 霞ヶ浦開発事業の目的

		目的	手段
治水		高い水位になっても 氾濫を防御	湖岸堤等の築堤
利水	農水	貯留による有効利用 (Y.P.±0m~1.3m)	・水門の運用変更 ・取排水施設の改築
	都市用水		

3. 管理の基本となる指標 (水位)



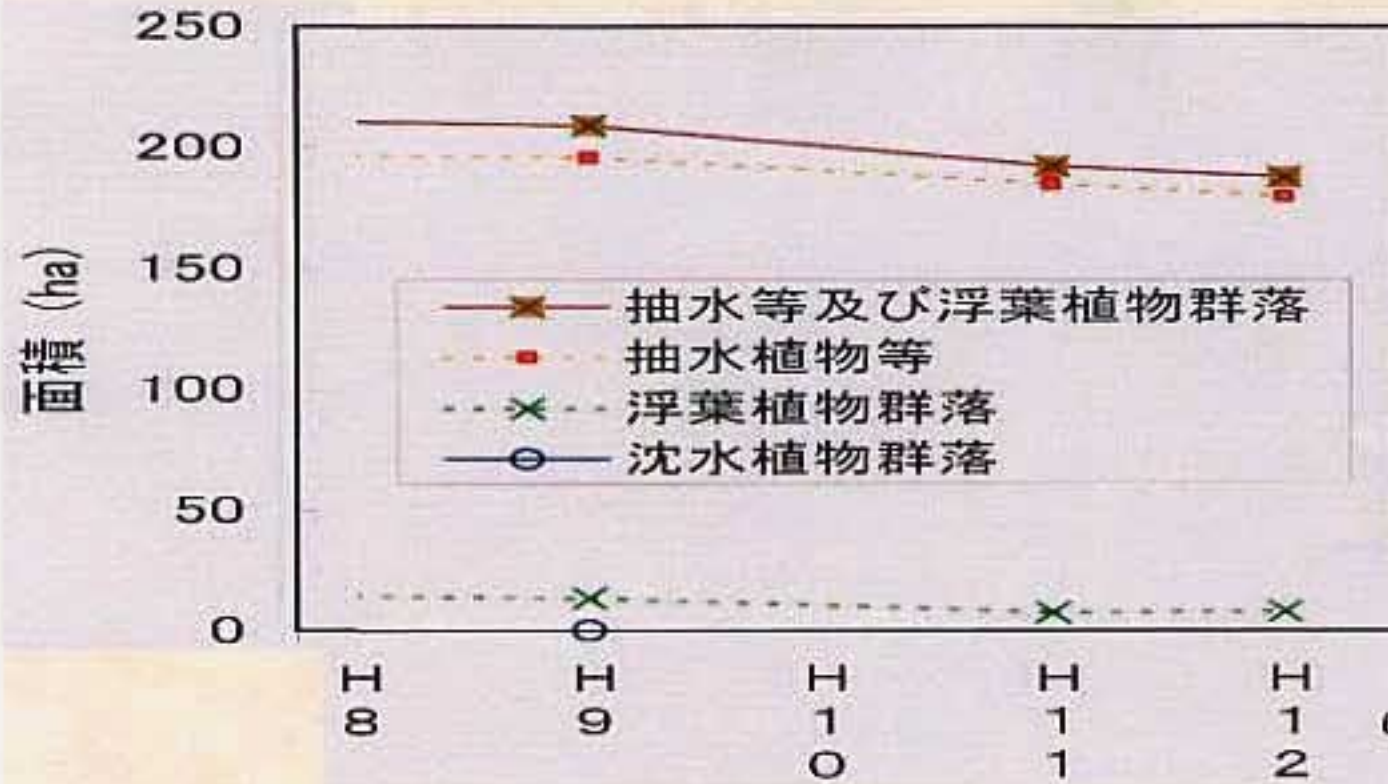
4. 事業の効果・影響等



- ① 管理目標水位は、あくまで「目安」
- ② 洪水あるいは濁水にも効果を発揮

4-1 管理移行後のモニタリング結果

● 湖岸植生は減少傾向



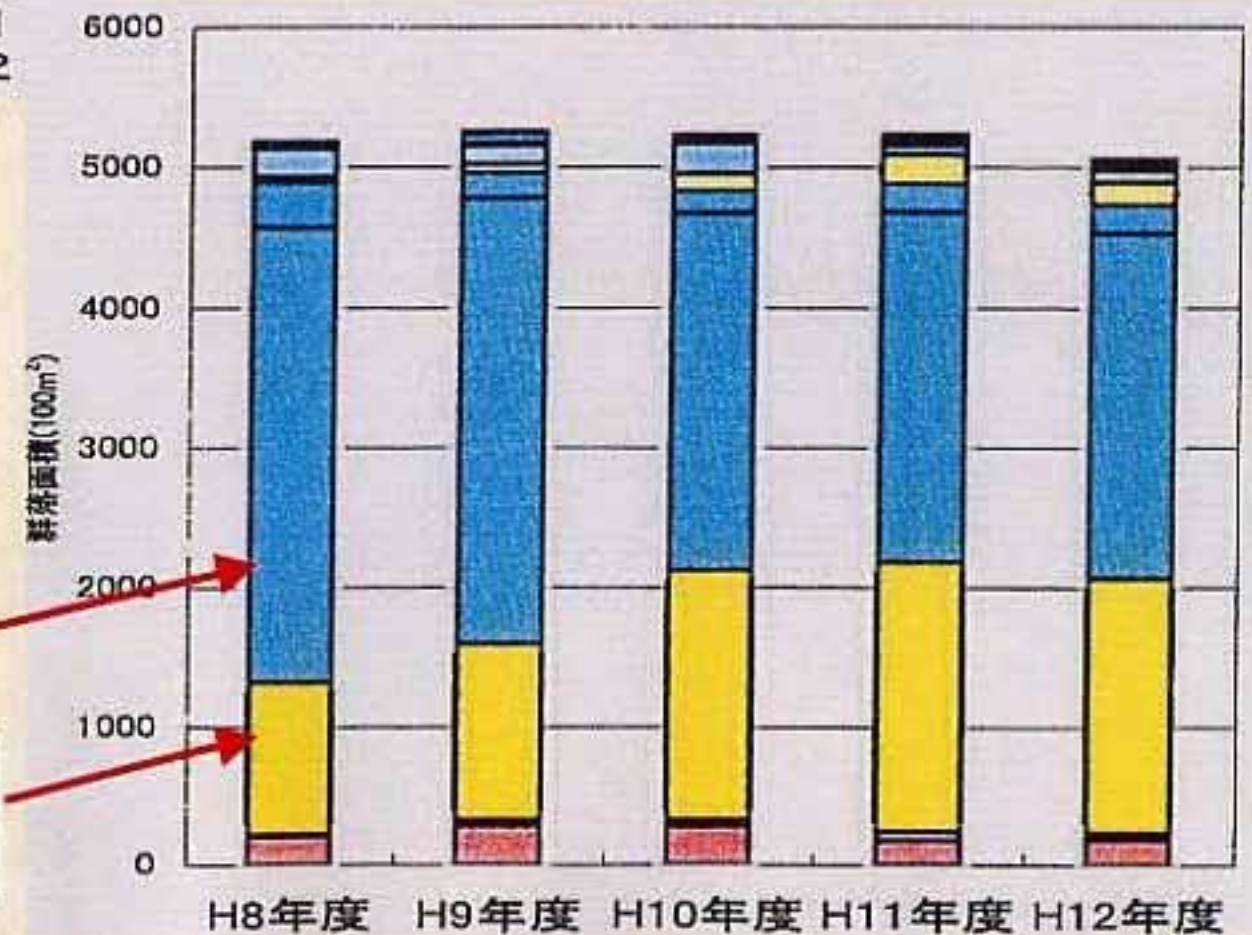
◀ 西浦湖岸植生の変化

▼ 妙岐の鼻における植物群落の変化

● 妙岐の鼻における植生が乾性の植物から湿性の植物に変化する傾向

カモノハシヨシ群落
(乾性の植物)

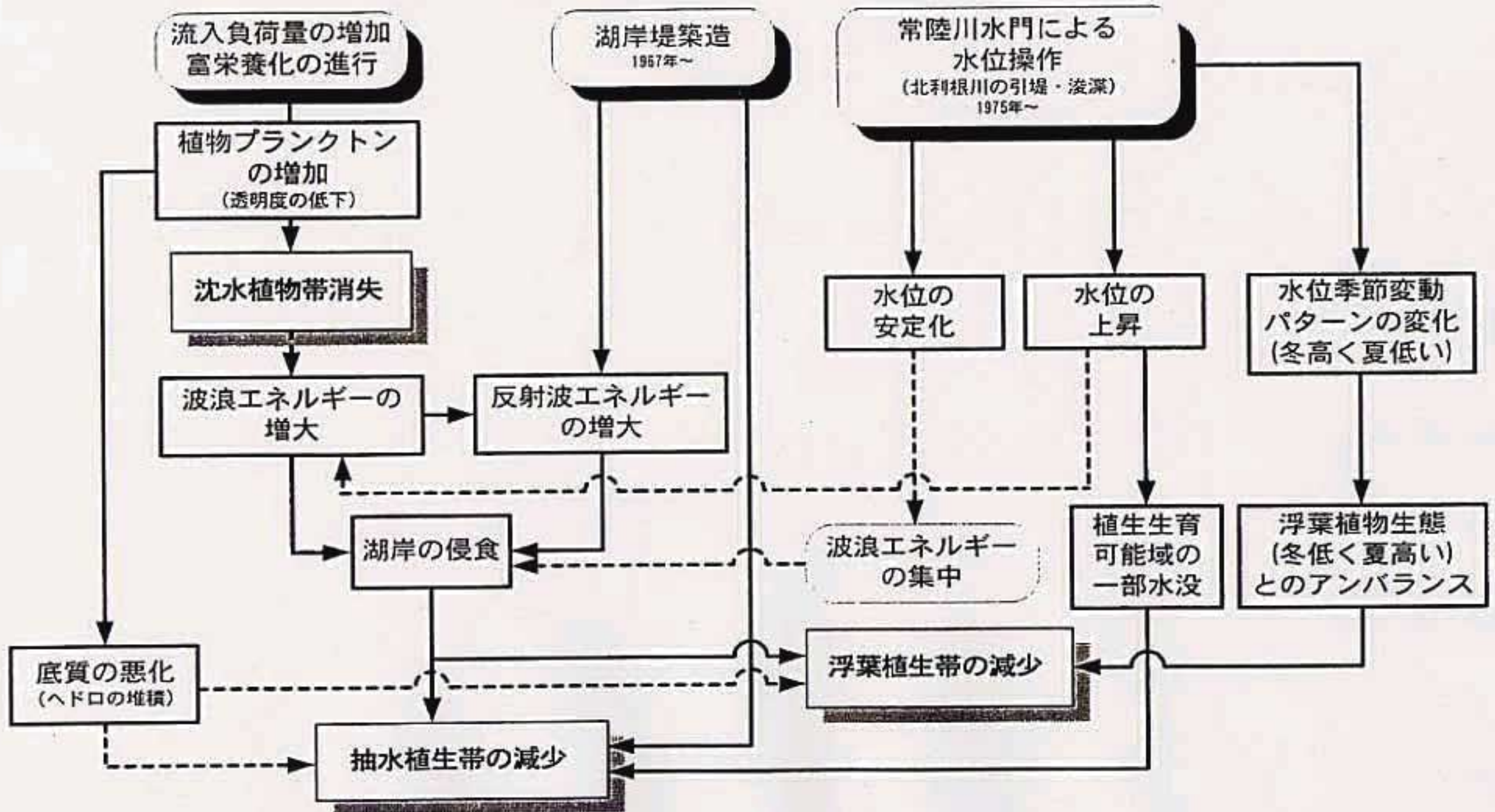
カサスゲーヨシ群落
(湿性の植物)



5. 影響に対する対応

湖岸植生帯の変化に対する緊急対策

○ 霞ヶ浦湖岸植生帯の衰退現象仮説フロー図



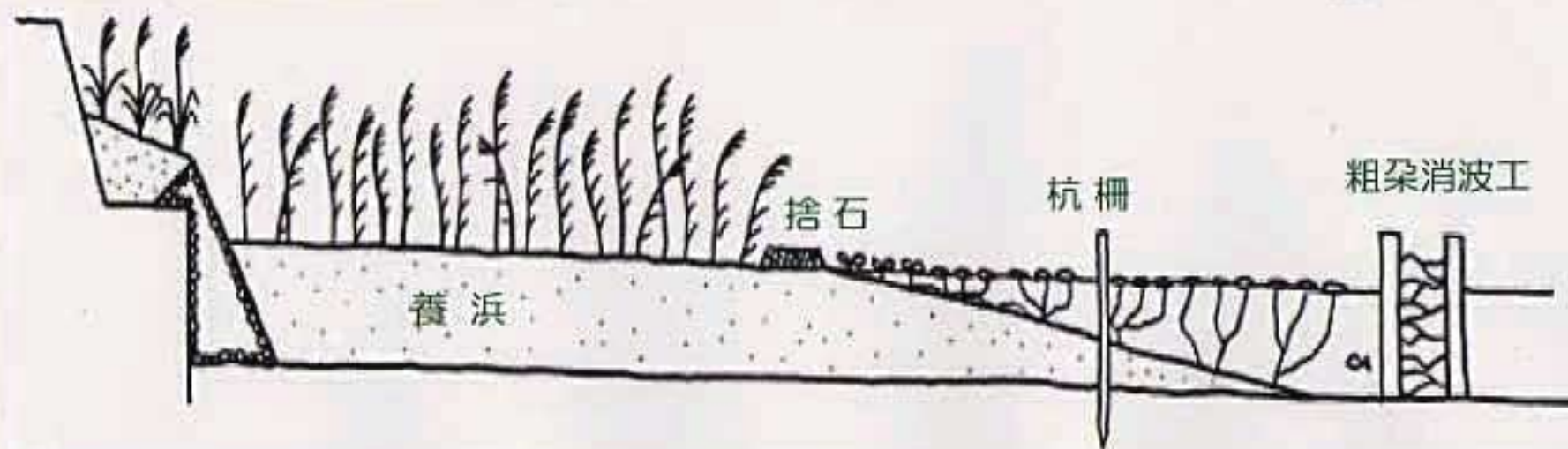
5-1 対策工の考え方

- ・ 波浪エネルギーの緩和
- ・ 波浪エネルギーによって失われた植物生育場の復活

○ 対策工位置図



○ 対策工模式図



5-2 対策の効果

施工前（平成13年6月）



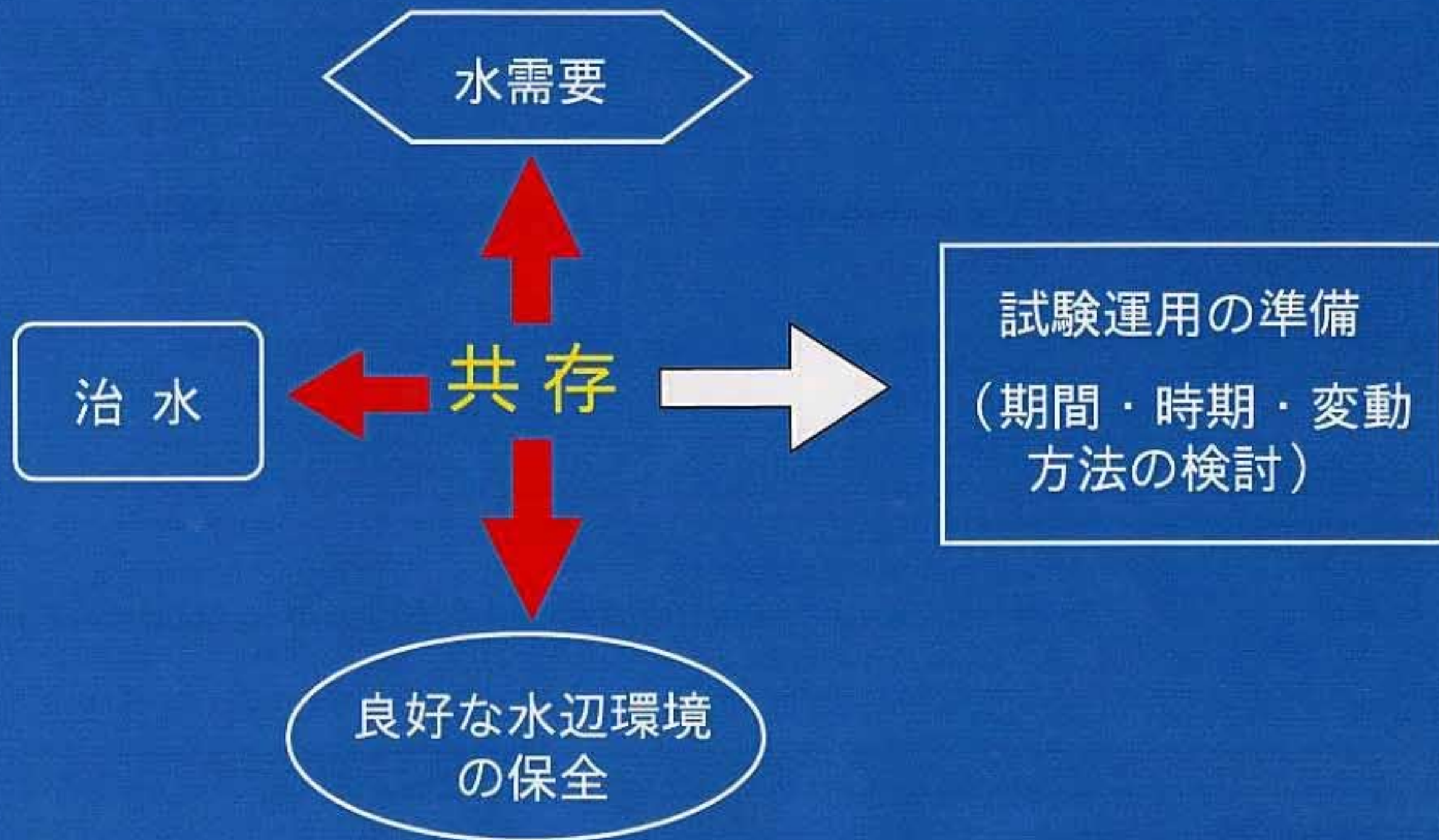
施工直後（平成14年4月）



施工後（平成14年6月）



6. 今後の管理に向けて



将来のY.P.+1. 3mに備えた模索が必要